

平成 18 年 10 月 26 日

平成 18 年度国際学術コミュニケーション委員会

I. GIF プロジェクト活動報告

1 GIF プロジェクト会議等開催状況

- ・平成 18 年 6 月 9 日, NII 及び紀伊国屋書店 OCLC センターとの日米 ILL/DD 実務運用（関係 3 者の役割分担, 料金決済上の課題等）に関する打合せ（NII）を開催した。
- ・平成 18 年 7 月 20 日, 平成 18 年度第 1 回 GIF プロジェクト会議（東大）を開催し, 日韓 ILL/DD 推進に係る KERIS 関係者との会議, 日米 ILL/DD における料金決済上の課題, GIF ガイドの改訂等について協議した。
- ・平成 18 年 10 月 2 日, NCC ILL/DD 委員会の co-chair である Sharon Domier 氏の来日を機に GIF プロジェクト打合せ（東大）を開催し, NCC Working Meeting（9 月 22 日～23 日メリーランド大学）における日米 ILL/DD 関連の議事内容等について意見交換を行った。

2 活動概要

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

①GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は平成 18 年 10 月 10 日現在で日本側 117 機関、130 図書館（内訳：国立大学 61 機関 72 図書館、公立大学 4 機関 4 図書館、私立大学 46 機関 48 図書館、大学共同利用機関等 6 機関 6 図書館）、北米側 48 機関、52 図書館であり、平成 18 年 5 月以降日本側 4 図書館、北米側 2 機関 2 図書館の増加となっている。

②現物貸借サービス参加状況

現物貸借サービスの参加状況は、平成 18 年 10 月 10 日現在で、日本側 66 機関、70 図書館（内訳：国立大学 39 機関 41 図書館、私立大学 22 機関 24 図書館、公立大学 3 機関 3 図書館、大学共同利用機関等 2 機関 2 図書館）、北米側 26 機関 28 図書館であり、平成 18 年 5 月以降日本側 2 図書館、北米側 3 機関 3 図書館の増加となっている。

③日米 ILL/DD 実施状況

平成 18 年度 4 月～9 月の日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。依然として日本側受付分の謝絶件数が多くなっているが、謝絶率は平成 17 年度と同程度である（56.8% → 56.5%）。日本側依頼分の謝絶率も同様である（45.1% → 44.8%）。

ただし、受付分については、複数館指定の依頼レコードの場合でも、「OCLC レコード単位」ではなく、「受付図書館単位」の処理結果を掲載している。

表1 日米 ILL/DD 実施状況（平成 18 年 4 月～平成 18 年 9 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	253	223	25	501	142	166	21	329
現物貸借	89	95	25	209	44	129	20	193
合計	342	318	50	710	186	295	41	522

④紀伊国屋書店 OCLC センターとの GIF 実務運用に関する打合せ

NII、紀伊国屋 OCLC センター及び参加館、3 者それぞれの役割分担について再確認を行ったほか、料金決済上の課題について意見交換を行った。料金決済上の課題については、NII と OCLC 間で ILL リクエストの完了時点（料金債権の発生時点）が異なることが判明し、料金決済データの日米間不一致例にもとづき現状分析を行うとともに、解決策について調査を行うこととした。（平成 18 年 6 月 9 日）

⑤OCLC との ISO ILL システム間リンクのエラー状況について

NII より、システム間リンクのエラー状況、具体的には、1）最終状態まで変遷しないレコード、2）OCLC からエラーメッセージが送信されたレコード、の調査結果について報告があり、今後 NII の相殺制度による決済を実現する際の大きな障害となることから、OCLC におけるレコード削除、次館転送及びキャンセル成立のタイミング等について、OCLC 側へ確認する必要があるとの指摘がなされた。

⑥NCC ILL/DD 委員会 GIF サイトにおける北米側参加館一覧の掲載について

平成 18 年 8 月 21 日付けで、NCC から、北米側参加館一覧を NCC が管理する以下の GIF サイト上に掲載した旨の連絡があり、日本側 GIF サイトの北米側参加状況についても、当該 URL へのリンクのみに変更した。

<http://www.nccjapan.org/gif.asp>

⑦ILL/DD 委員会メンバーの変更

平成 18 年 9 月 22 日～23 日メリーランド大学において開催された NCC Working Meeting において、ILL/DD 委員会委員長の交代が承認され、Sharon Domier 及び Kathryn Ridenour 両氏に代わり、Chiaki Sakai 氏の就任が決定した。

（2）日韓 ILL/DD プロジェクト

①暫定サービスの参加状況

平成 18 年 10 月 10 日現在、日本側参加館は、74 機関 92 図書館（国立 46 機関 60 図書館、私立 23 機関 26 図書館、大学共同利用機関等 5 機関 6 図書館）、韓国側参加館は、239 館となっている。平成 18 年 5 月以降日本側で 3 機関 3 図書館の増加である。

②日韓 ILL/DD 実施状況

日韓 ILL/DD は平成 16 年 11 月から暫定サービスが開始され、順調に利用が増えている。平成 17 年度実績に比べ、月平均の受付件数が増加し、依頼件数の割合は若干減少傾向にある。依頼・受付双方とも、謝絶率は非常に低い。

平成 18 年度 4 月～9 月の利用状況を表 2 に示す。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 18 年 4 月～平成 18 年 9 月）

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	37	6	0	43	813	58	37	908

③KERIS との本格サービスに関する東京会議について

本格システム始動に向けて NII と KERIS とのやりとりが再開され、平成 18 年 8 月 16 日～17 日の日程で、Meeting of ILL System Linkage between KERIS WiLL and NACSIS-ILL が NII において開催された。Policy Session 及び Technical Session から成り、Policy Session に、日本側から GIF プロジェクトチームメンバー（栃谷，井上）及び NII（相原，荻原，服部），KERIS 側から、

Mr. Kweon, Seong Ho (Director of System Development Team)

Mr. Jung, Ki Young (Associate Researcher, System Development Team)

Miss Hwang, Hye Jeon (Assistant Researcher, Domestic Knowledge Information Team)

Mr. Daeseob Bang (Futureinfonet)

Mr. Suhyuk Park (Futureinfonet)

が出席し、ISO ILL システムリンクによる運用面の課題について協議を行った。その結果、以下の点について合意に達した。

1) 実 施 内 容 複写サービスのみ

※現物貸借は、複写サービスの実績等を踏まえ検討する。

2) 開 始 時 期 2007 年 4 月

3) 運用テスト 2007 年 1 月

※日韓それぞれ 3 館がテストに参加し、実際の運用と同じ手順を踏む。

4) 現行（エージェント）方式からの切り替え

・エージェント方式：新規リクエストを 2007 年 3 月末までとし、4 月は 3 月までのリクエストの処理期間とする（中間状態のレコードは強制処理）。

・ISO リンク方式：2007 年 4 月～

5) 料金及び決済処理

・日韓 ILL/DD での決済通貨は「円」とする。

・決済は、NII の料金相殺システムを使用する。

6) 参加図書館 従来どおり、参加を表明したメンバーとする。

④KERIS サイトにおける韓国側参加館一覧の掲載について

平成 18 年 8 月 29 日付けで、KERIS から、韓国側参加館一覧を KERIS が管理する以下のサイト上に掲載した旨の連絡があり、日本側 GIF サイトの韓国側参加状況についても、当該 URL へのリンクのみに変更した。

http://www.riss4u.net/libn_ch/ill/nii_organ.html

3 今後の課題

- (1) 日韓 ILL/DD プロジェクトの本格運用、現物貸借の実施
- (2) 日米 ILL/DD の改善と国際 ILL 担当者のスキルアップ方策
- (3) GIF 参加館の範囲の拡大について
- (4) 北米以外の国々との国際 ILL の展開
- (5) デジタルリソースの形成・流通に関する日米の連携・協力

II. SPARC/JAPAN 関係活動報告

1 会議及び広報活動等

(1) 打ち合わせ

- 8 月 SPARC “Author Rights”翻訳に関するメール打合せ
- 10 月 4 日（水）（国立情報学研究所）
NII「国際学術情報流通基盤整備事業」同事業及びパートナー誌の活動評価に関する打合せ

(2) 国立情報学研究所との協議等

- 第 1 回運営委員会（9 月 8 日(金)／国立情報学研究所）
平成 18 年度事業計画等を決定（大学図書館から見た事業評価の実施を決定）

(3) 広報活動等

- SPARC「Author Rights（日本語訳）」の Web 公開（9 月 15 日（金））

2 今後の活動予定

- NII「国際学術情報流通基盤整備事業」同事業及びパートナー誌の活動評価
大学図書館による評価グループを設けて、NII と協力して活動評価を実施し、評価報告書を作成する。

III その他

1 デジタル・リソースの形成・流通に関する日米の連携・協力について

(1) 9月1日(金) 東京大学総合図書館大会議室にて、An ad hoc meeting on Japan-US digital resources を開催。

2006年4月に開催された NCC Open Meeting での CEAL、NCC/DRC の共通の意向を受けて、日本で製作されているデータベース類の大学への導入の際の問題点について、日本・アメリカに共通の図書館にかかわる問題を含めて、国産データベースベンダーと率直な意見交換を行なうため、国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会、電子ジャーナルタスクフォース、North American Coordinating Council on Japanese Materials(NCC)、Public and Private University Library Consortium (PULC) の共催により開催した。

参加者は JANUL から 12 名、PULC から 2 名、北米から 11 名、オブサーバ 1 名の計 26 名。土屋 俊 [国際学術コミュニケーション委員会委員長]、鈴木宏子 (以上、千葉大学)、笹川郁夫、関川雅彦、柄谷泰文、市村櫻子 [記録]、守屋文葉、床井啓太郎 (以上、東京大学)、井上 修 (東京工業大学)、村井しのぶ (一橋大学)、吉田幸苗 (横浜国立大学)、相原雪乃 (国立情報学研究所)、中元 誠、前田弘子 (以上、早稲田大学)、Michael Smitka (Washington and Lee University)、Tokiko Bazzell (University of Hawaii)、Ellen Hammond (Yale University)、Toshie Marra [NCC Chair](University of California, Los Angeles)、Kuniko McVey (Harvard University)、Sachie Noguchi (Columbia University)、Tomoko Steen [NCC/DRC Chair](Library of Congress)、Meng-fen Su (University of Texas at Austin)、Mari Suzuki (University of Michigan)、Kristina Troost (Duke University)、Keiko Yokota-Carter [CEAL/CJM Chair](University of Washington)、小出いずみ (渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター)。

ベンターは、読売新聞社、日本経済新聞社、朝日新聞社の 3 社。

(2) Japanese Resources Re-Use Plan (日本資料再利用計画) について

9月1日(金) An ad hoc meeting on Japan-US digital resources において、国立大学図書館協会としては、まず東京大学がケーススタディを作成し、進めていく旨説明があり、今後も日米で検討を進めていくことが確認された。

以上